

和の文化祭—〇〇をさぐり，そのみ力を伝えよう

「和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる」 中山 圭子 文

指導者 大段 めぐみ（1組） 釜山 祐幸（4組）

- 1 日 時 平成29年11月24日（金）
- 2 学 年 第5学年1組 37名 4組 37名
- 3 単元について

【単元観】

本単元は、学習指導要領解説国語編第5学年及び第6学年「C読むこと」の目標（3）「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」を受け、指導事項ウ「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。」を中心に指導していく。筆者の考えや主張をとらえ、それを伝えるために筆者がどのような事例をどのように構成して述べているのか読む能力を育むことをねらいとした。

【教材の特性】

本教材で筆者は、和菓子について大きく3つの事例で説明し、和菓子の魅力を述べることを通して、和菓子に限らず、様々な和の文化について考えることで、日本の文化を受けついでいくことができると主張している。

この教材の特性は4点ある。1点目は序論部・本論部・結論部の三論構成が明確であること、2点目は「歴史」「他の文化との関わり」「支える人々」の3つの事例で説明していること、3点目は説明の資料として年表と写真を示していること、4点目は読み手に伝わりやすいよう投げかけや断定などの表現の工夫がされていることである。

筆者が読み手に和菓子の文化の良さを伝え、和の文化を受けつぐことに関心がもてる文章である。

【育てたい資質・能力】

知識・技能	文章の構成や段落のまとまりに着目する読み方の理解
思考・判断・表現	主張を相手に伝えるための事例と主張のつながりを吟味・評価する力
主体的に学習に取り組む態度	自分の判断を伝え合いながら、より適切な評価をしようと集団として考えを発展・深化させようとする態度

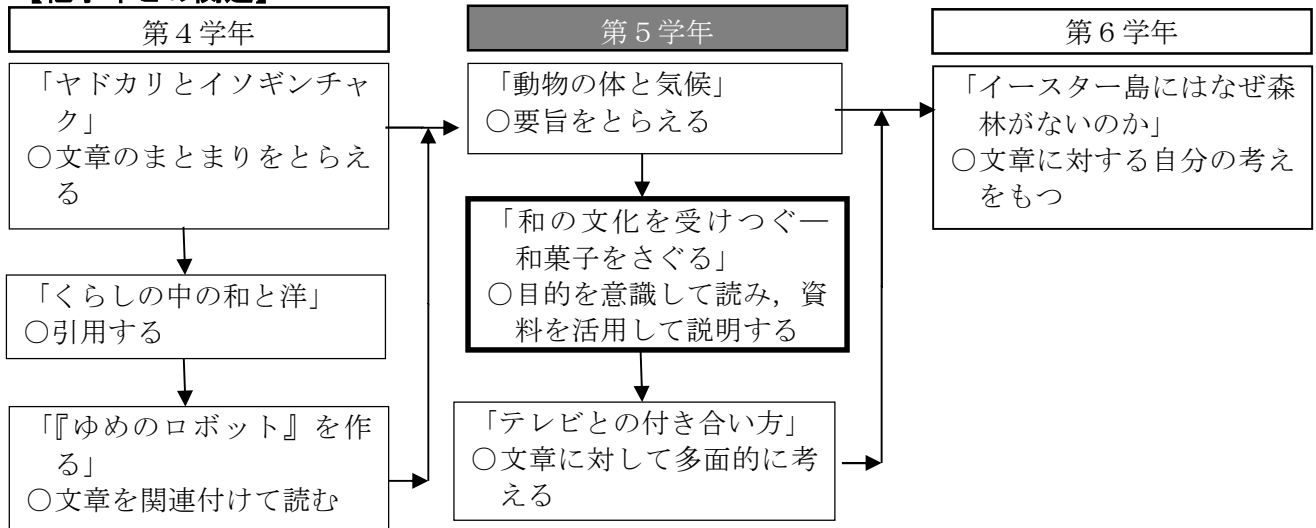
【児童観】

観点	内 容	定着率
読む (読書事項)	○文章構成（序論部、本論部、結論部）	約73%
	○本論のまとめ（事例の内容）	約79%
書く・対話する	○「主張」「根拠」「理由付け」を明確にして、自分の考えをも7ち、表現することができる。	約75%
	【アンケート】	
	○ペアやグループの友達と意見を交流することができる。	約94%
	○クラス全体の中で自分の考えを交流することができる。	約78%
分析	○友達の意見や自分の意見を広げたり、深めたりすることに活かすことができる。	約46%
	文章構成を捉える力やまとめごとにも読む力を継続して指導する必要がある。 児童が書いた説明文からは、自分の考えの「根拠」や「理由付け」を適切に表現できない児童がいる。「根拠」「理由付け」を明確にして、自分の考えを表現するよう指導する必要がある。 ペアやグループ学習には進んで取り組める反面、全体での話し合いを通して、自分自身の考えが深まったと感じている児童はまだ少ない。「友達の意見を聞いて深まったこと」について話し合わせたり、振り返らせたりする必要がある。	

【指導観】

単元について	一時間ごとの授業について
<p>○単元のゴールとして、自分がテーマに設定した和の文化を伝える説明文を書き、「和の文化祭」で友達・保護者に調べたことを伝える活動を設定する。単元を通して「どのような事例を取り上げて説明すれば、より和の文化の魅力を伝えられる文章になるのか」という課題意識をもたせ、筆者の述べ方に着目しながら読むようにさせていく。</p> <p>○教材文の事例を吟味・評価したり、資料の示し方や言葉の使い方について気付いたりしたことをもとに、自分の説明文での効果的な事例の挙げ方や言葉の使い方を考えることで、読む力を確かなものにしていく。</p>	<p>○用いられた事例の効果を考えさせる中で筆者の主張やまとめと事例を関連付け、文章の要旨をとらえられるようにしていく。</p> <p>○事例の順序について、筆者の述べ方の工夫になるのかどうかを視点に検討させていく。そのことで事例の順序には筆者の意図があり、主張が明確に読み手に伝わるように工夫されていることを捉えさせていく。</p> <p>○説明文を書く時には、児童が集団で考えを発展・深化し協働的に学習が進められるよう、同じテーマ別にグループをつくり、事例の挙げ方を検討したり資料の提示の仕方を考えたりさせていく。</p>

【他学年との関連】



4 単元の指導目標

- 説明文を書くときに、筆者の述べ方の工夫を活かそうとしている。（国語への関心・意欲・態度）
- ◎文章構成に着目し、筆者の要旨をとらえ、自分の考えを明確にして読むことができる。（読むことウ）
- 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解することができる。
（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ（キ））

5 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
和の文化の説明文を書く上で、文章の内容や述べ方の工夫を活かそうとしている。	文章構成に着目しながら、的確に要旨をとらえ、事例の挙げ方に対する自分の考えを明確にして読んでいる。（ウ）	序論部・本論部・結論部の役割や尾括型の効果について理解し、活かしている。（イ（キ））

6 単元のGOAL

パフォーマンス 課題	和の文化「〇〇」についてさぐり、友達や保護者へ向けて、その魅力を伝える説明文を筆者の述べ方の良さを活かして書き、「和の文化祭」で交流しよう。		
評価 規 準	A 説明文を書く時に、いくつかの「事例」について、述べる順序や関係性を考えて挙げるとともに、 <u>序論部や結論部においても読み手に納得してもらえる工夫をしている。</u>	B 説明文を書く時に、いくつかの「事例」について、述べる順序や関係性を考えて挙げている。	C 「事例」を挙げたり、筆者の文章構成を意識したりしないで説明文を書いている。
〔パフォーマンスモデル〕（B規準）			
<p style="text-align: center;">和の文化を受けつぐ―熊野筆をさぐる</p> <p>わたしは熊野筆を紹介します。熊野筆は、広島県安芸郡熊野町で作られる筆のことで、日本で生産される筆の八十パーセントが熊野筆です。</p> <p>熊野筆は、どのようにしてその形を確立していったのでしょうか。まず、熊野筆の歴史を見てみましょう。</p> <p>熊野の人々は昔から、農業ができない冬場に出かせぎに行っていました。しかし、筆づくりの技術が伝わってからは、熊野に残って筆づくりをした方がよいと考える人々が多くなり、盛んになりました。明治時代になって日本に学校が多くなると、書道の授業が行われ、筆は多く使われるようになりました。筆づくりが盛んだった東京・大阪・名古屋等の都市部では、近代産業の発展とともに筆づくりはおとろえていきました。しかし、熊野では新しい産業が入らず、その後も地域を支える産業として発展していきました。</p> <p>次に、熊野筆とほかの文化との関わりを見てみましょう。</p> <p>戦争が終わった一時期、学校での習字の時間が無くなり、筆を使うことが少なくなっていました。しかし熊野では、絵をかく時に使う画筆や、化しように使う化しよう筆等、他の文化の中で使う筆を生産しました。これにより、熊野筆は、外国へも多く輸出され、世界でも広く知られるようになりました。サッカーの「なでしこジャパン」がワールドカップで優勝した際、国民栄誉賞の副賞としてプレゼントされたのも、熊野筆の化しよう筆でした。</p>			
<p>このように、熊野筆は、産業や学校といった社会の影響を受けるとともに、絵画や化しようといった他の文化と関わりながら、その形を確立してきました。では、その熊野筆の文化は、どのような人に支えられ、受けつがれてきたのでしょうか。それは、筆職人の人たちです。</p> <p>筆職人は一人前の仕事ができるまでに二〜三年かかります。手仕事なので、長い経験が必要になります。また、筆づくりは大変根気が必要な作業です。そのようなこともあり、熊野では筆づくりの技術を受けつぐ後継者不足に悩まされています。ですから熊野では、筆づくりの技術を受けつぐ人を育てるため、若い人を対象に講習会をしたり、「筆祭り」や「競書大会」を開いて熊野筆に興味をもってもらったりしています。</p> <p>一方、職人だけではなく、筆を使う人も大切です。多くの人が熊野筆の良さに気付き、使ってきたからこそ、これまで受けつがれてきたのです。</p> <p>このように、熊野筆の世界は、知るほどにおくが深いものです。社会や文化と関わりながら、長い間、職人や技術を受けつごうとする人々、使う人々に支えられて受けつがれてきた文化なのです。</p>			

7 単元の指導計画（全11時間扱い）

次	学習活動（時数）	評 価				
		関	読	言	評価規準	評価方法
一	・和の文化を紹介する説明文を書いて、「和の文化祭」で交流するという学習課題を立てる。（1）	○			・和の文化に興味を持ち、和の文化を紹介する説明文を書くことに意欲をもって取り組もうとしている。	観察 発言 ノート
	・知っている和の文化を出し合い、テーマを決めるとともに、紹介する事例の案を話し合う。（1）	○			・テーマ別グループで、和の文化について意欲的に話し合っている。	観察 発言 ノート
二	・本論を3つの事例に分け、文章の要旨を一文でまとめる。（1）		○		・本論を3つの事例に分け、要旨を一文「○○（事例）を通して～（主張）を伝えたい」にまとめている。	観察 発言 ノート
	・筆者の文章にどのような工夫がされているか話し合い、説明の工夫を捉える。（1）		○		・筆者が主張を伝えるために、文章構成や事例、資料、述べ方の工夫をしていることを捉えている。	観察 発言 ノート
	・筆者が挙げた事例の挙げ方を吟味・評価し、そのポイントをまとめる。 【4組本時】（1）		○		・主張を明確に伝える文章を書くために、筆者が事例の内容を吟味・評価して、3つの事例を選んでいくことに気づき、まとめている。	観察 発言 ノート
	・筆者の事例を挙げる順序を吟味・評価し、そのポイントをまとめる。 【1組本時】（1）		○		・主張を明確に伝える文章を書くために、筆者が事例の順序を吟味・評価して、3つの事例を並べていくことに気づき、まとめている。	観察 発言 ノート
	・筆者の表現の工夫を吟味・評価し、そのポイントをまとめる。（1）		○		・自分の考えを明確に伝える文章を書くために、筆者の表現の工夫を吟味・評価し、表現のポイントをまとめている。	観察 発言 ノート
三	・テーマ別のグループに分かれて、選択する事例や資料について話し合う。（1）	○		◎	・二次で学習したことを活かして事例や資料を選ぼうとしている。 ・筆者の述べ方の工夫を活かそうとしている。	観察 発言 ノート
	・自分の選んだ和の文化の説明文を書く。（2）		○	◎	・事例の挙げ方を考えて、自分の考えを明確にして書いている。 ・序論部、本論部、結論部の役割や尾括型の効果を理解し、活かしている。	作品
	・「和の文化祭」で和の文化について交流し、単元で付いた力を振り返る。（1）	○			・書いた説明文と資料をもとに、調べた和の文化について、意欲的に説明している。	観察 発言 ノート

【評価問題】（読み・書きの技能）

「生き物は円柱形」本川達雄（光村図書 5年 平成29年度版）

○文章の要旨を『筆者は～を伝えたい。そのために…を説明している。』という文章で、100字以内にまとめましょう。

（解答例）筆者は、生き物の共通性を見だし、なぜ同じなのかを考えるとおもしろいということ伝えたい。そのために、生き物が円柱形だという共通性を見だし、円柱形が強く、速い形であることを説明している。（94字）

8-1 本時の展開（4組）

（1）本時の目標（第5時/全11時）

筆者が挙げた事例の内容を吟味・評価することを通して、筆者の主張を明確に伝えるための事例の選び方の工夫を読み取り、まとめることができる。

（2）評価規準

主張を明確に伝える文章を書くために、筆者が事例の内容を吟味、評価して、3つの事例を選んでいることに気付き、まとめている。

本時で目指す子どもの姿（本時の goal）

筆者の選んだ事例はどれもなくてはならない事例だと考えます。それは、「歴史」や「文化との関わり」、「支える人々」という事例を挙げることで、和菓子の良さを知った上で「日本の文化を受けつぐことが大切である」という主張に納得できるからです。

（3）本時の学習展開

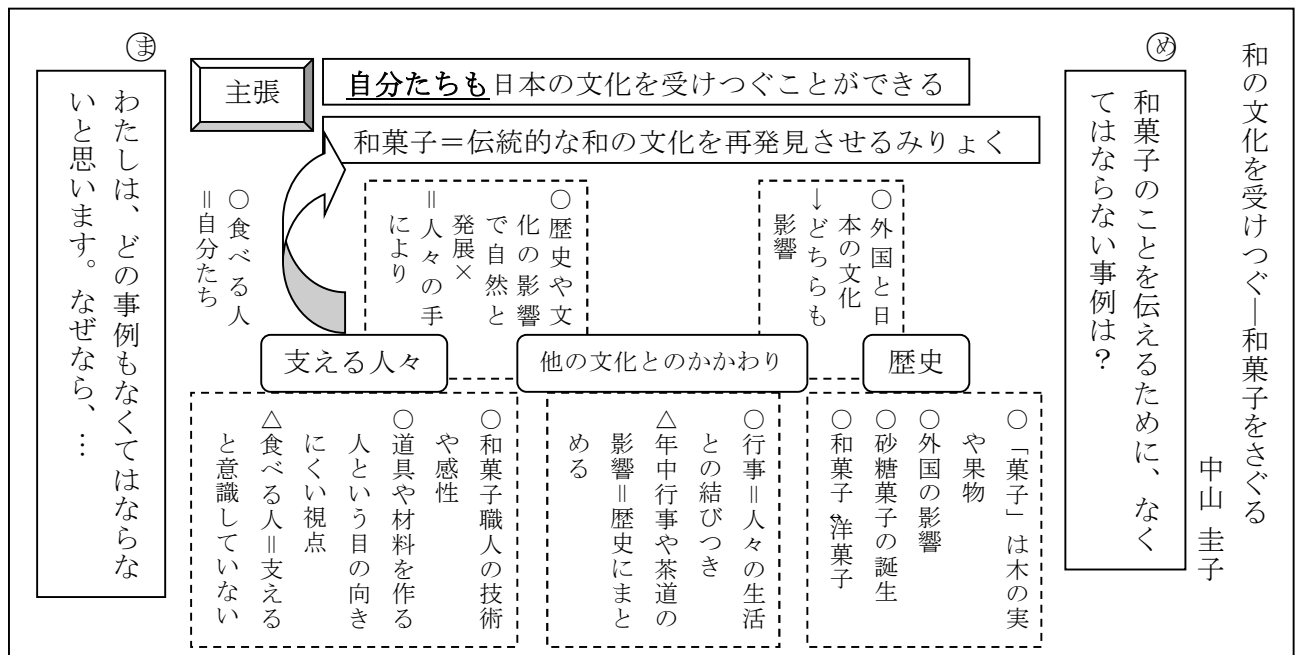
学習活動 ◆指導内容	○主な発問や指示 ・予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ◎評価（評価方法）
1 前時の学習を想起するとともに、和の文化を紹介するための「事例」について、考えられるものを発表する。	○筆者は和の文化を紹介する文章の中に、どんな工夫をしていましたか。 ・3つの事例を挙げて、「和菓子には伝統的な和の文化を再発見させてくれるようなみりょくがある」と主張していました。 ・年表や写真等の資料を提示していました。 ・投げかけや断定等、言葉の表現の工夫をしていました。 ○筆者は主に3つの事例を選び、和菓子について紹介しました。どの事例も筆者にとって同じくらい大切ですか。	◇掲示をもとに、文章構成や事例、資料、述べ方等の文章の工夫について振り返る。 ◇第一次で児童が挙げた事例の案についても、掲示をもとに振り返る。 ◇必要性について判断させながら、めあてにつなげていく。

和菓子のことを伝えるために、なくてはならない事例は？

2 筆者の挙げた事例の良さと、その選び方について考える。	○和菓子の魅力を伝える上で、なくてはならない事例はどれですか。 ・「歴史」の事例がなくてはならないと思います。菓子の由来を知ることができるからです。（評価する） ・「歴史」と「ほかの文化との関わり」の事例がなくてはならないと思います。どちらも取り上げることで、外国と日本の他の文化のどちらの影響も受けて、発展してきたことが分かるからです。（関連付ける） ・「歴史」「ほかの文化との関わり」「支える人々」の事例はどれも必要です。理由は、「和菓子は長い時を経て、それぞれの時代の文化に育まれ、いく世代もの人々の夢や創意が受けつがれてきたものであり、奥が深いものだ」という筆者の意見を伝えるために必要だからです。（関連付ける）	◇根拠をもとに理由を明確に示し、意見を発言させる。 ◇複数の事例を関連付けた発言を肯定的に評価し、広げるようにする。 ◇事例の内容が、主張へつながっていることがはっきりと分かるように板書する。
------------------------------	---	--

<p>3 主張に着目し、主張と事例のつながりについて考える。</p> <p>4 主張と事例のつながりについて評価し、まとめる。</p> <p>◆事例の選び方の意図を読む</p> <p>5 振り返りを書く。</p> <p>6 次時の学習を見通す。</p>	<p>・「支える人々」の事例で「食べる人」を挙げたことは反対です。和菓子を食べるだけでは支えているという意識はもっていないからです。(多面的に見る)</p> <p>○「支える人々」で「食べる人」の事例は<u>必要</u>ではないのでしょうか。</p> <p>・「食べる人」の事例は必要だと思います。筆者は「わたしたちもまた、和の文化を受けついでいくことができる」と、和の文化を受けつぐことの大切さを主張しています。もし「食べる人」の事例が無かったら、自分たちが和菓子の文化と関わっていると感じられません。(関連付ける)</p> <p>○話し合ったことを踏まえて、自分の考えをまとめましょう。</p> <p>・筆者は、主張することにつなげるように、事例を選んで挙げていることが分かりました。事例は、自分が主張する内容に合わせて挙げるのが大切だと分かりました。</p> <p>○自分が説明文を書く時に、活かしたいことを振り返りましょう。</p> <p>○次の時間は、事例を挙げる順序について考えていきましょう。</p>	<p>◇批判的な意見が出たらそれを大切に、教師が共感的に受け止めながら次の発問へつなげていくようにする。</p> <p>◇「食べる人」の事例は、筆者の主張を読み手に伝える上で、重要であることを捉えさせていく。</p> <p>◎自分の考えを明確に伝える文章を書くために、筆者の事例の内容を吟味、評価し、事例を選択するポイントをまとめている。(観察、発言、ノート)</p> <p>◇単元のゴールを見据えた振り返りの視点を与える。</p> <p>◇次時では、事例を挙げる順序について考えることを伝える。</p>
--	---	--

(4) 板書計画



8-2 本時の展開（1組）

（1）本時の目標（第6時/全11時）

筆者が挙げた事例の順序を吟味・評価することを通して、筆者の主張を明確に伝えるための事例の順序のつながりを読み取り、まとめることができる。

（2）評価規準

主張を明確に伝える文章を書くために、筆者が事例の順序を吟味、評価して、3つの並べていることに気付き、まとめている。

本時で目指す子どもの姿（本時の goal）

事例の順序によって筆者の伝えたいことが明確に伝えることができる。また、事例と事例の間に次の事例に視点を向けさせる文章を入れることで事例のつながりがわかりやすくなる。

（3）本時の学習展開

学習活動 ◆指導内容	○主な発問や指示 ・予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ◎評価（評価方法）
1 前時の学習を想起するとともに、事例の順序について考える。	○前時に学習した3つの事例は筆者の主張とつながっていましたか。 ・3つの事例があることで筆者の要旨である「日本の文化を受けつぐことが大切である」という意見を主張していた。 ○この3つの事例があれば順序を入れ替えても筆者の主張が伝わりますか。	◇掲示をもとに、文章構成や事例、資料、述べ方等の文章の工夫について振り返る。
<p>どうして筆者はこの事例の順序にしたのだろう。</p>		
2 事例の順序について考え、交流する。	○この順序にすること良い点はありますか。 ・最初に菓子の由来を知ることができます。（評価する） ・和菓子のことをあまり知らない人でも和菓子のことを読み手が知ることができます。（評価する） ・事例にはつながりがあるからです。（関連付ける） ・この順序にすることで主張に説得力があります。（関連付ける） ・大きな例があり、その具体例が示してあります。（分類する） ・歴史と他の文化の事例の間にいくときつなぎの文章があります。（関連付ける） ・つなぎの文章があり、そのことでより次の事例に視点を向けることができます。（評価する） ・職人の事例からわたしたちへと広がりを持たせる文章になっています。（関連付ける）	◇本文の事例の順序の意図について考えさせる。 ◇良い点を見つけられない児童に対して、「歴史の事例が最初に述べてある良さは何か」など、視点を与える助言を行い、一人一人が考えをもてるようにしていく。 ◇12段落に着目した考えを取り上げ、12段落の効果を考え、次の発問につなげていく。

<p>3 順序と事例のつながりについて評価し、まとめる。</p> <p>◆事例のつながりの意図を読む</p> <p>4 振り返りを書く。</p> <p>5 次時の学習を見通す。</p>	<p>○12 段落があることで文章にどのような効果がありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 和菓子と他の文化との関わりについてまとめられていて分かりやすい。(構造化する) 文化を支えている人や受け継がれ方について視点がいくような投げかけの工夫がされている。(評価する) 12 段落は他の事例の段落と同じではなく、主張につなげる文章になっている。(関連付ける) <p>○学習したことをもとに、自分の考えをまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事例にはつながりがあり、事例の順序によって筆者の伝えたいことが明確に伝えることができる。 <p>○自分が説明文を書く時に、活かしたいことを振り返りましょう。</p> <p>○次の時間は、文章の表現の工夫について考えていきましょう。</p>	<p>◇12 段落の効果について話し合いながら、事例のつながりについて図を使って、視覚化し、話し合いを焦点化する。</p> <p>◎自分の考えを明確に伝える文章を書くために、筆者の事例を挙げる順序を吟味、評価し事例を挙げる順序のポイントをまとめている。(観察、発言、ノート)</p> <p>◇次時では、筆者の文章の表現の工夫について学習することを伝える。</p>
--	--	---

(4) 板書計画

